

訪問看護が変わった!

左右する力があることが実感できました。その意味で、昔抱いていた精神科看護のイメージよりも、いまはずっと楽しいです。

廣 それは私も感じますね。薬を使わないといけない局面ももちろんありますが、私たち看護師が利用者に「安心できる環境」を提供できれば、それだけで病状がよくなるケースがたくさんありますから。例えば、眠れなくて苦しんでいた患者さんが、私たちが話を聞くだけで気持ち落ち着いて、ずっと眠れるようになるということもあるわけです。ある意味で薬以上に治療に寄与できる。それは精神科の看護、とくに訪問看護の醍醐味だと思います。

逆に言えば、話をするだけで安心していただけるようなそういう関係性を、私たちが利用者やご家族との間に築くことが、すごく大切なわけです。

Q そうした関係性の築き方というのは、精神科看護の経験が豊富にあるからこそわかるという面もあるのでしょうか?

廣 そうですね。看護の三要素は「知識・技術・態度」だと言われます。そのうち、知識と技術については自分で学ぶこともできますが、態度については看護経験を積み重ねて培っていくものと私は思っています。精神科看護の経験が乏しいと、精神疾患を持つ人との接し方、関係性の深め方はわかりにくいと思います。その経験が豊富なスタッフが揃っていることが、栄仁会の3つのステーション共通の強みです。

臨田 たとえば、私が所長を務める「訪問看護ステーション京たなべ」の場合、キャリア15年以上のスタッフが私含めて3名で、8年から12年目のスタッフが2名と、経験豊富なベテラン揃いです。

× みなさんのお話で、訪問看護の重要性がよくわかりました。ありがとうございます。

アウトリーチ・チーム「ゆるり」

精神科の受診中断や入退院を繰り返している方、長期入院から退院した方など、一時期集中的な生活支援・医療を包括的に必要としている方々を対象に、多職種がチームを組んで訪問します。様々な相談に対し、本人と一緒に考え、解決できるようお手伝いします。



宇治おうばく病院
医師と精神保健福祉士



訪問看護ステーションおうばく
看護師と作業療法士

宇治おうばく病院(医師・精神保健福祉士)と
訪問看護ステーションおうばく(看護師・作業療法士)で
チームを組み訪問しています

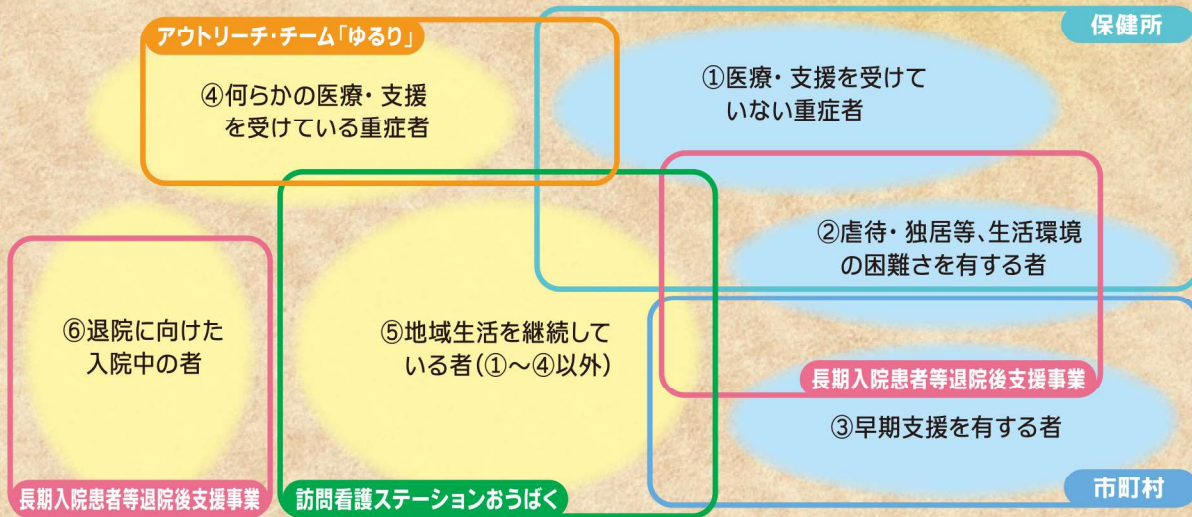
アウトリーチ・チーム「ゆるり」

- 未治療の方を含む下図①は、医療や支援を押し付けるのではなく、ご本のペースや思いを大切に寄り添っています。
- 下図④が、アウトリーチ・チームの主な訪問対象層です。一時的に集中的なチームによる支援をさせていただくことで、下図⑤に移行していくことを目指します。

地域生活支援を要する精神障害者の多様な状態像

重症

軽症



支援が届いている

支援が届いていない